

協議員から出された意見

第39回協議会

地域毎の話し合いについて	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹の第2回の地域の話し合いでは、地下水への影響および換気所の問題等について共通認識をもったところである。【提出資料補足説明】 ・三鷹の場合、インターチェンジをどうするかということが、外環の問題を考える上での非常に大きな分岐点になってくる。【提出資料補足説明】 ・周辺街路の問題等について、調布市や世田谷区とどう役割分担をしていくのか、どんな道路づくりをしていくのかという話し合いを進めていくことが必要であるという議論が出てきた。【提出資料補足説明】 ・インターチェンジやジャンクションの構造を客観的にシミュレーションし、その上で効果と影響がどうなるかを分析した上で、問題点の共通認識を得ていきたい。【提出資料補足説明】 (藤川協議員) ・武蔵野市の話し合いは、地域の人々が考えていることを踏まえて協議員が議論していくために、市民から意見を伺う方式を採用した。【提出資料補足説明】 ・今まで協議会の中で議論してきた内容について、市民からの意見を受けたということで、大方は協議会での議論が市民の関心をバックにしたものであったと思う。【提出資料補足説明】 ・地上部街路の問題は、地域の関心からすれば、協議会でもう少し突っ込んだ議論があってもよかった。【提出資料補足説明】 (塩沢協議員) ・市民からは、思ったよりも外環のP Iについての意見があった。 ・地上部街路の問題については、武蔵野市としてこれから住民と一緒に話し合いをしなければならない。 (濱本協議員) ・世田谷区では、オープンハウスと同時開催で、2回に分けて約1時間程度の意見交換を行った。【提出資料補足説明】 (栗下協議員) ・時間が十分ではなく、意見交換をするところまでいかなかったため、2回目をやってほしいという希望を述べた住民が大勢いた。 (栗林協議員) ・地域P Iを何度もやってほしいと言う人が多かった。 ・協議員の発表の場をもってほしいという意見があった。 ・外環が必要であると言う人も、もろ手を挙げて賛成という訳ではなく、何かしら疑問をもっていたり地域の環境に対する懸念をもつ人がほとんどであった。 (江崎協議員)
議論の整理(とりまとめ)について	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめに」の「とりまとめ以降も、計画・事業中・供用後の各段階で、引き続き住民の参加による議論をすることも必要である」という文章は、必要性の議論などどうでもいいから次の段階に入っていく様に見えるので、削除して欲しい。 (江崎協議員) ・今まで話し合ってきたことを今後どう生かしていくのか約束しておく必要がある。 (栗林協議員) ・「必要という結論になった場合」という言葉を追加すればよいのではない。 (渡辺協議員) ・「外環が必要だと認められた場合に、計画・事業中・供用後の各段階で引き続き住民の参加による議論をすることが必要である」ということをはっきり入れておいた方がいい。 (新協議員) ・「狛江・世田谷周辺」では、「狛江・世田谷」の周辺という意味になるので、「狛江・世田谷地域」とすべき。 (栗林協議員) ・「東名高速とのジャンクション周辺での交通渋滞発生」とあるが、東名高速ジャンクション一体型インターチェンジは議論していないはずであり、この言葉の意味を確認したい。 (栗下協議員) ・地域の問題をとりまとめの中でどの程度記載するのか。 (藤川協議員) ・地域ごとの話し合いで地区毎に出されているレポートを、そのまま参考資料としたらどうか。(道家協議員) ・地域の問題点をどうやってそろえるかという話であり、その辺を明確にしないとまとめられない。 (濱本協議員) ・世田谷区では、広報で「地域の意見はP I協議会に報告する」と言っているので、何らかの形で記録に残されるのが良い。 (栗林協議員) ・地域によって、P I協議員だけでやっているところもあれば、参加する住民を制限したり、抽選するといったやり方でやっており、それは地域全体の意見ではなく一部の意見なので、まとめ方としてどうするかは懇談会で相談した方がいい。 (濱本協議員) ・環境に与える影響については最悪の場合を想定して検討すべきであるという意見に至る理由で重要なので、「外環埼玉区間で推計値を大きく上回る交通量が確認された」という文章を追加して欲しい。(江崎協議員) ・埼玉外環の交通量の話しは、「あわせて以下のような意見」というところでまとめるべき。(渡辺協議員)

- ・埼玉外環の交通量の文章を入れると、交通量に関係のない事は最悪の状態を想定するという事にはならなくなってしまう。(栗林協議員)
- ・もしどうしても書かなければならないのであれば、交通のところで書いた方がいい。(濱本協議員)
- ・埼玉の外環においては、予想と違うということは、大気の部分で触れている。(渡辺協議員)
- ・予測交通量は大気汚染だけではなく、騒音・振動なども関連してくるので全般のところに入れて欲しい。(江崎協議員)
- ・埼玉外環の事例は、他山の石として反省しなさいという意味合いにとどめるべきであり、大きな項目として取り上げるのはおかしい。(渡辺協議員)
- ・都民や広い関係者にPIをもっと知ってもらい、意見を述べる場をつくっていくことを提案したい。(秋山協議員)
- ・自分たちが居住しているところに道路をつくる場合には、こういう条件があるということを行政が聞くのは当然であり、それを調整していくのが協議会の役目である。(新協議員)
- ・いいことも迷惑なことも両方あるということ、みんなで一緒に考えてもらいたいということで多くの関係者が意見を述べる場をつくることを提案した。(秋山協議員)
- ・みんなが自分の居住している地域で、全能力を振り絞って行政と話し合いをし、納得のいく計画をやっていく、あるいは阻止するということをやっけていかないと、本当の意味での住民が都、国を支えていることにはならない。(新協議員)
- ・だれでも参加はしているが、この人はどういう視点でものをいっているということを切り分けていくことがPIの大きな課題である。(栗林協議員)
- ・都内の大気環境が悪い原因としては、大型車等の都心通過交通ではなくて、むしろ車に依存している社会のあり方や物流のあり方を書くべき。
- ・「環状八号線の交通量減少で環状八号線沿線の大気環境の改善が見込まれるものの」は、「環状八号線沿線の大気環境が改善されたとしても、渋滞箇所がほかへ移動し、大気汚染がより広域に広がり、外環沿線で新たに大気環境悪化の発生が懸念される」と記述すべき。
- ・交通量推計に疑問があるので、交通量推計に基づいて算出されたNOxやSPM排出量削減の数字は、ここに書くほどのことではない。(江崎協議員)
- ・協議会の場で議論して合意された部分と、合意まではしていない部分を書き分けており、この使い分けをしっかりとした上で書き残すべき。
- ・「大型車等の都心通過交通」の他にも原因があるということであれば、項目として追加することはあると思うが、都心通過交通も大気環境を悪化させている原因の1つである。
- ・交通量が減っていないというデータ、減っている区間もあるといったデータが出されており、そういった意見もあるという形で書かれるということはある。(山本協議員)
- ・必要性の有無については全然議論していない上、我々が求める資料は行政側からほとんど出ていないが、そういうことで論点をまとめるということではどうか。必要性の議論はこの辺で打ちどめにするのか。(濱本協議員)
- ・現段階でとりまとめられる部分についてとりまとめたい。(山本協議員)

必要性の有無（効果と影響）について

意見

- ・時間評価値は実質の渋滞解消の経済効果の推計にも用いられているが、この数値は生活実感とかなりかけ離れているように思う。【提出資料補足説明】
- ・今後、外環の必要性を検討するにあたって、外環の事業費、維持管理費が示されておらず、沿線地域における走行時間、走行費用、交通事故増加の評価項目が入っていないといった問題がある。【提出資料補足説明】(江崎協議員)
- ・ODの拾い方が国の資料と違うように思うので、改めて確認して、数値が合っているのか検証させていただきたい。
- ・沿線の地域の道路の渋滞状況をみて、周辺の道路ですいているところがあれば便益がプラス、込んでいる道路があれば便益がマイナスとして評価される形になっている。(山本協議員)
- ・高井戸ランプの下り線がaitした時には、交通の流れが少し違ってくるのではないかと。(秋山協議員)